《薬局サーベイランスコメント》

『今シーズンのインフルエンザ流行の立ち上がりは 2014/2015 年シーズンと同水準となってきているが、12 月中にある程度大きな流行となると予想されることに変わりはない』

2016 年 12 月 13 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2016/2017 年シーズン）の 2016 年第 49 週（12 月 5 日～12 月 11 日）の全国のインフルエンザ推定患者数は、薬局サーベイランスによると 134,233 であり、第 33 週以降 17 週間連続して増加が続いています。一方、第 47 週以降の流行の立ち上がり方は予想よりも緩やかであり、やはり 12 月中に大きな流行となった前々シーズン（2014/2015 年シーズン）と同水準となってきています（図 1）。休日明けの第 50 週（今週）の月曜日（12 月 12 日）の推定患者数は 35,406 と今シーズンこれまでの 1 日の患者数の最高値を 1 万人近く上回っており、インフルエンザの患者数は今週も更に増加するものと思われます。

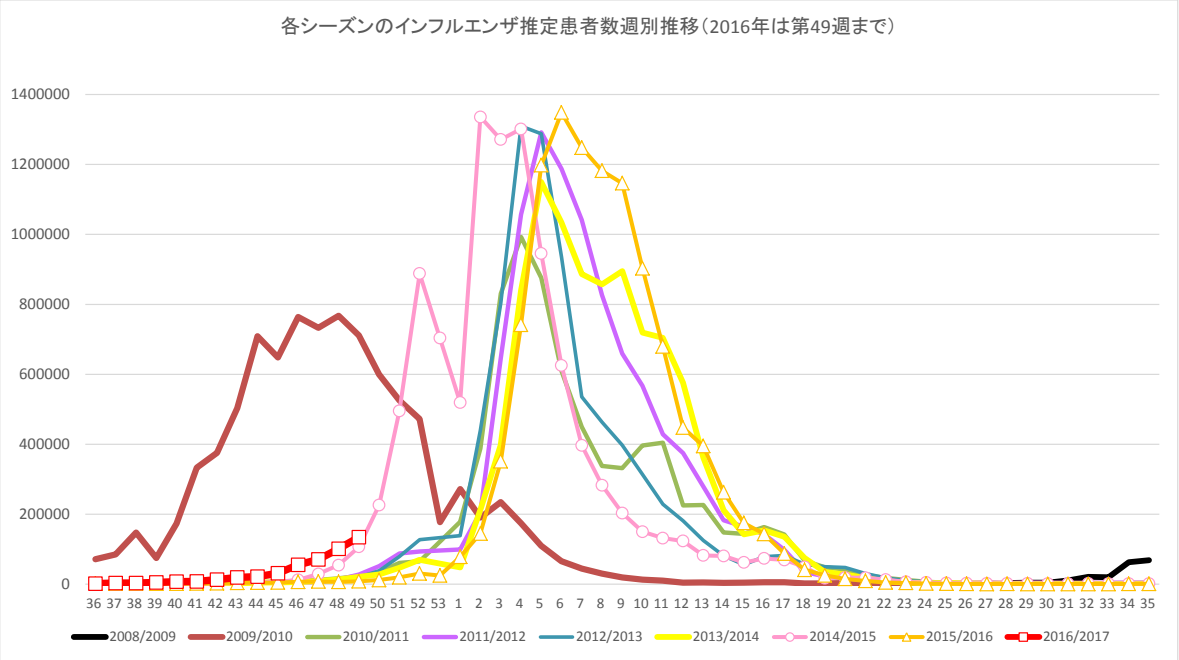

図 1．過去 6 シーズンと今シーズン（2016/2017 シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移

各都道府県別の第 49 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると、北海

道、富山県、栃木県、岩手県、福井県、沖縄県、新潟県、東京都、広島県、群馬県、奈良県、香川県の順となっています。

2016 年第 36 週から第 49 週までの累積の推定患者数は 473,640 であり、年齢群別では 10～14 歳（14.0%）、5～9 歳（13.9%）、40～49 歳（12.8%）、30～39 歳（12.1%）、20～29 歳（10.0%）、15～19 歳（8.9%）、50～59 歳（8.4%）、0～4 歳（7.8%）の順となっています。10～14 歳の年齢群の増加が目立っています（図 2）。

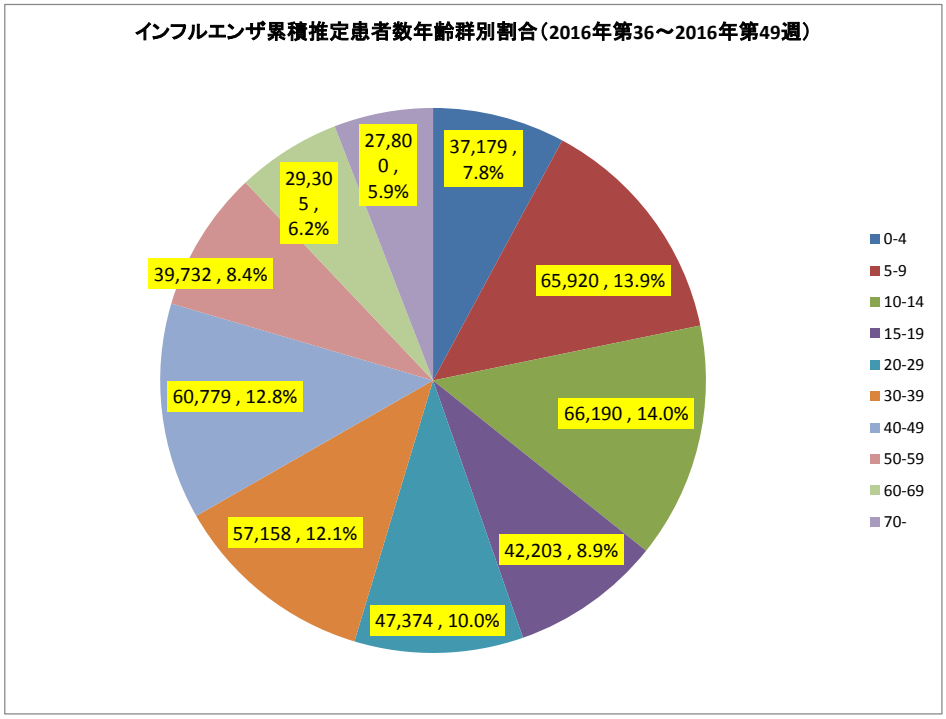

図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2016 年第 36～2016 年第 48 週、累積推定患者数=473,640）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（405 検体解析）は、A/H3（A 香港）亜型が 86.7%と大半を占めており、次いで A/H1pdm 11.1%、B 型 2.2%の順となっています（図 3）。

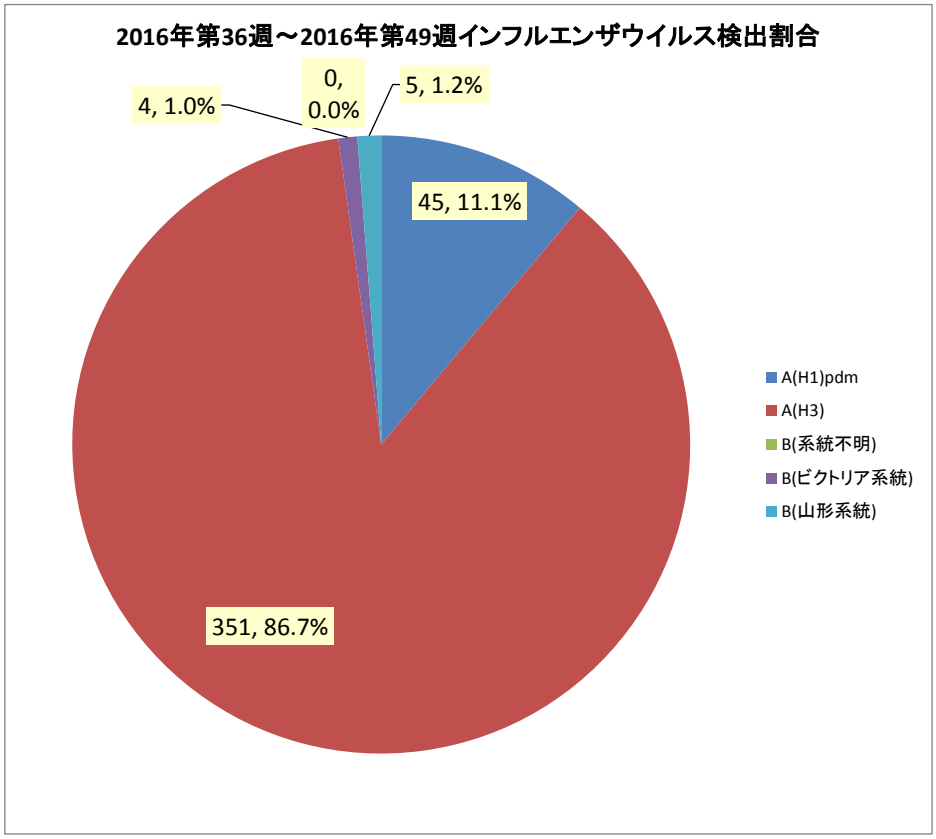

図 3. 2016 年第 36～2016 年第 45 週インフルエンザウイルス検出割合（総検出数=405）

今シーズンのインフルエンザ流行の立ち上がりはここへきて 2014/2015 年シーズンと同水準となりつつあるが、12 月中にある程度大きな流行となると予想されることに変わりはありません。今後ともインフルエンザの患者発生の推移には注意が必要です。